

野鳥たちは今

◇絶滅危機のサシバ

サシバは中型のタカです。1980年代までは横浜市でも繁殖が見られました。しかし、里山と谷戸の開発で2009年には神奈川県では数個の営巣に激減した野鳥です。神奈川県レッドデータでは絶滅危惧Ⅰ類(繁殖期)。里山と田んぼのある環境の復活がサシバには必要です。

◇減少しているコサギ

川や池で見る白い小型のサギはコサギです。水辺で歩きながら餌を探す姿を見た事がある人は多いと思います。都市化に伴いコロニー(集団営巣地)が減少して神奈川県内では2ヶ所のみです。コサギの白い姿が水辺から見られなくなる可能性も高いです。田んぼの近くの藪がある林を保全再生することが大切です。

◇カラスは今

日本野鳥の会神奈川支部が横浜市内のカラスのねぐらで2000年と2008年に行った個体数調査によると、2008年は2000年に比べ約半数になっていることが分かりました。これは横浜市の生ゴミ排出量の減少や排出時の管理(ネット掛け)等によりカラスの餌が減少した結果と考えられます。

横浜市内の探鳥地

●寺家ふるさと村 樹林 水辺 街の鳥



東急田園都市線青葉台駅から東急バス鴨志田団地行で終点鴨志田団地下車徒歩3分

●新治市民の森 樹林 水辺 街の鳥



横浜線十日市場駅から徒歩20分

●こども自然公園 樹林 水辺 街の鳥



相鉄線「二俣川」駅下車 徒歩15分

●舞岡公園 樹林 水辺 街の鳥



横浜市営地下鉄舞岡駅より徒歩25分

●横浜自然観察の森 樹林 水辺 街の鳥



JR「大船」東口神奈中バス「金沢八景駅」行バス、約25分 横浜霊園下車

●長浜公園野鳥観察園 水辺の鳥



京急 能見台駅徒歩15分

源流域調査結果より(平成16年度～19年度)



新治の源流域

源流域調査結果 1

横浜の主な源流域は、緑の七大地点に位置しています(左図)。これらの源流域は鳥類たちの棲み家と同時にそれ以外の多様な生き物たちの棲み家でもあります。緑の七大地点を守ることは、多様な生物を守ることに繋がります。平成16～19年度に緑の七大地点を対象に環境科学研究所で行った源流域調査では植物852種、動物625種が確認され、その内鳥類は85種確認されました。

源流域調査結果 2

横浜の源流域には、谷戸地形の里地・里山があり、野鳥以外にも水路周辺には希少なホトケドジョウ、ホタル等が生息しています。源流域調査によると希少種は動植物合わせて128種確認されています。



ホトケドジョウ

源流域調査結果 3

外来の動植物は近年急増しています。人の影響が少ない源流域の調査でも鳥類5%、植物20%、哺乳類50%が外来生物でした。近縁種との交配等により、在来種の生物多様性を阻害するものは、環境への放出が禁じられています(外来生物法)。源流域調査で確認された特定外来生物は7種でした。



樹皮を剥くタイワンリス

よこはまの生き物たちと長～くお付き合いするために-横浜市の施策より-

横浜市は、緑の量と質を維持・向上させ`緑豊かなまち横浜`を次の世代に引き継いでいくために、「横浜みどりアップ計画」に取り組んでいます。この計画は、樹林地を守る・農地を守る・緑をつくるを三本の柱として、市民・団体・行政が一緒に取り組んでいくものです。さらに、平成21年度からは、「横浜みどり税」による税込相当額を積み立てる横浜みどり基金を財源とした、新期・拡充施策も始めました。
(「横浜みどりアップ計画」については、環境創造局みどりアップ推進課 045-671-2712 まで)

監修 日本野鳥の会神奈川支部

引用文献

- 樋口広芳(1996) 保全生物学 東京大学出版会
- 鷲谷いずみ(2008) 絵でわかる生態系のしくみ 講談社サイエンティフィク

横浜の野鳥たち

平成22年2月

資料作成 環境創造局環境科学研究所

http://www.city.yokohama.jp/me/kankyoku/mamoru/kenkyu/

〒235-0012 横浜市磯子区滝頭1-2-15

TEL045-752-2605 FAX045-752-2609

このリーフレットは、再生紙を使用しています。

横浜の野鳥たち

～横浜の源流域調査結果・他より～



ジョウビタキ(新治)

本資料の内容

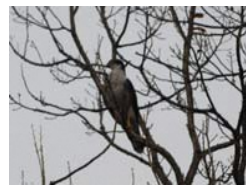
- よこはまで見られる環境別の野鳥たち
- 野鳥たちの生態
- よこはま市内の主な探鳥地
- 源流域調査結果
- 横浜市の施策

環境科学研究所では、生物多様性に関わる市内生物生息環境、都市のヒートアイランド現象、有害化学物質、大気・水環境、下水道技術開発等の調査研究を行っています。

2010年2月

横浜市環境創造局環境科学研究所

里山を主な生息場としている野鳥たち



オオタカ



ノスリ



カケス



モズ(開けた畑等)



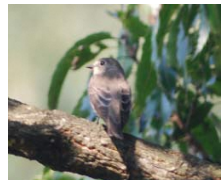
ヤマガラ



アカハラ(冬鳥)



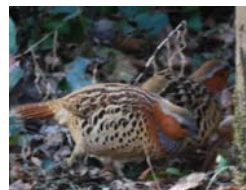
シメ(冬鳥)



エゾビタキ(旅鳥)



シロハラ(冬鳥)



コジュケイ(外来種)

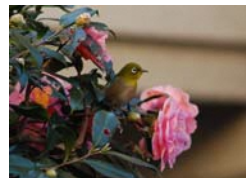


アオジ(冬鳥)

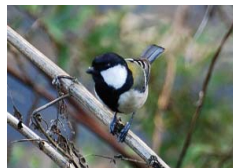


キビタキ(夏鳥)

街の公園、街路樹、住宅でもみられる野鳥たち



メジロ



シジュウカラ



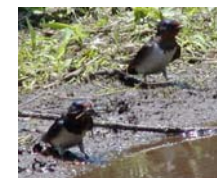
スズメ



コゲラ



ヒヨドリ



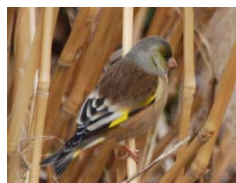
ツバメ(夏鳥)



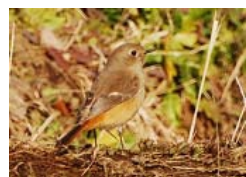
オナガ



ツグミ(冬鳥)



カワラビト



ジョウビタキ♀(冬鳥)



トビ



ハッカチョウ(外来種 横浜市南部)

水辺を主な生息場としている野鳥1(源流～下流、池、湿地)



カルガモ(河川、池)



カワセミ(河川、池)



キセキレイ(河川、池)



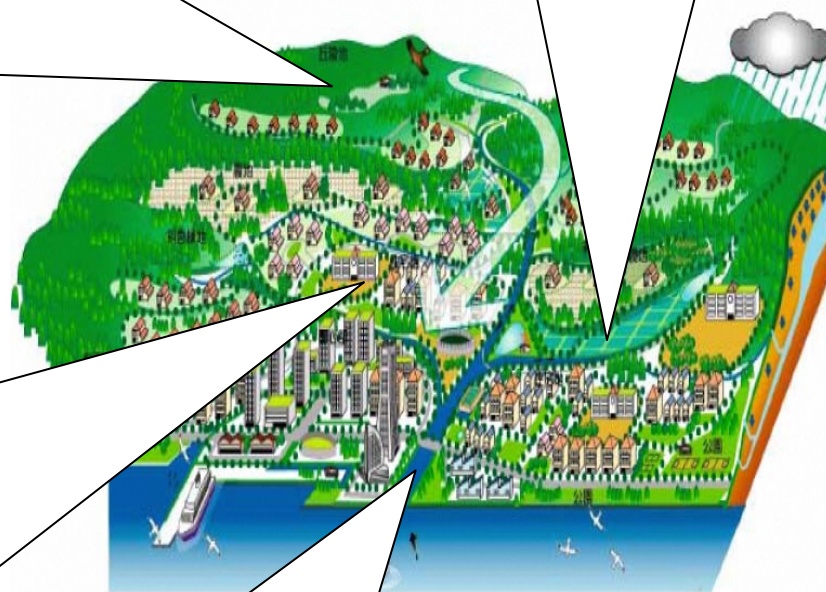
ハクセキレイ(河川、街)



カイツブリ(池)



ゴイサギ(湿地、河川、池)



水辺を主な生息場としている野鳥2(河川～海岸)



ヒドリガモ(冬鳥)



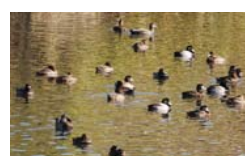
ホシハジロ(冬鳥)



オナガガモ(冬鳥)



アオサギ



スズガモ(河口～内湾、冬鳥)

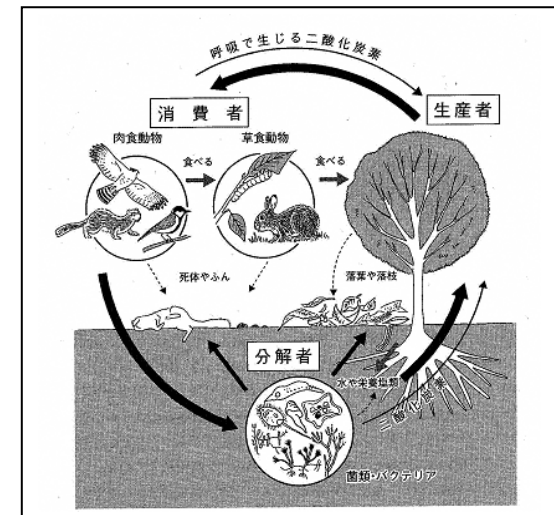


ユリカモメ

野鳥たちの暮らし

¹⁾樋口(1996)イラスト重原

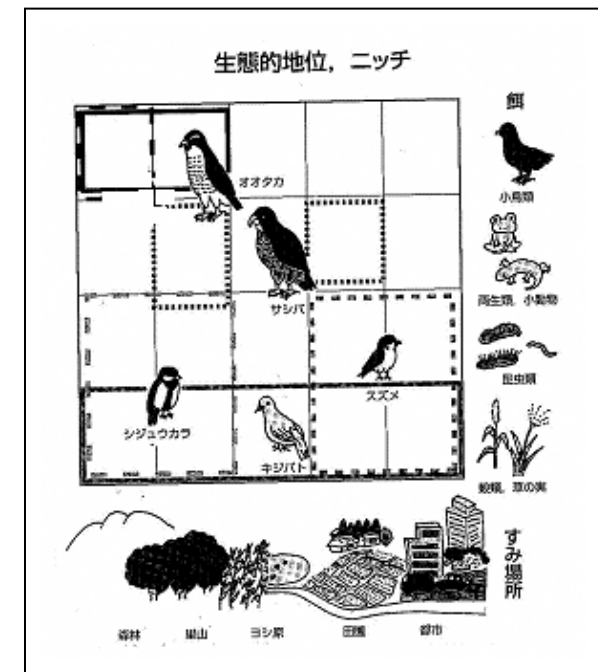
生物の世界は、生産者としての植物、消費者としての動物、分解者としての土壌動物やバクテリアからなっています。この関係を食物連鎖といえます。野鳥たちは、食物連鎖の上位に位置しています。



◇棲み分けをしている野鳥たち

²⁾鷲谷(2008)を改変イラスト後藤

下図は、野鳥たちの種類によって棲み場所が違い、餌も違うので、互いに棲み分けている様子を示しています。



◇鳥類種数は森林面積が大きいほど多い

鳥類種数は、森林面積が大きいほど、草本層、低木層、高木層の各階層に均等に植被が発達している森林ほど、生息する鳥の種数が増えることが知られています。